

令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

島根県

（地域における現状・課題）

・「部活動の在り方に関する方針」に基づき、県内の公立中学校（義務教育学校後期課程、特別支援学校中学部を含む。）及び県立高等学校（特別支援学校高等部を含む。）の部活動において適切な休養日、活動時間等が設定されるよう、部活動の負担軽減に向けた取組を実施するとともに、県教育委員会働き方改革推進会議において部活動の在り方を検討。

・①地域移行の受け皿となる指導者・団体の確保、②部活動の指導における専門的な知識・技能を有する教職員の確保、③学校によって生徒が選択できる部活動に大きな差が生じる、等の課題を抱えている。

（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

・雲南市（3回）や美郷町（2回）において検討委員会等を開催し、学校部活動の持続可能性や、実際に地域移行を行った場合の指導者の確保や練習場所の確保など多くの課題が上がった。

・学校部活動の持続可能性については、学校関係者へのアンケート調査を実施し、教員自身の意識についても確認を行った。また、指導者の確保については、市で人材バンクを立ち上げ、登録を促すなど積極的な展開を行った。

・県として、国の指針が出たのちに各市町村を対象に説明会等を実施し、各地域の状況や課題の確認、地域移行に向けた意見交換等を行った。

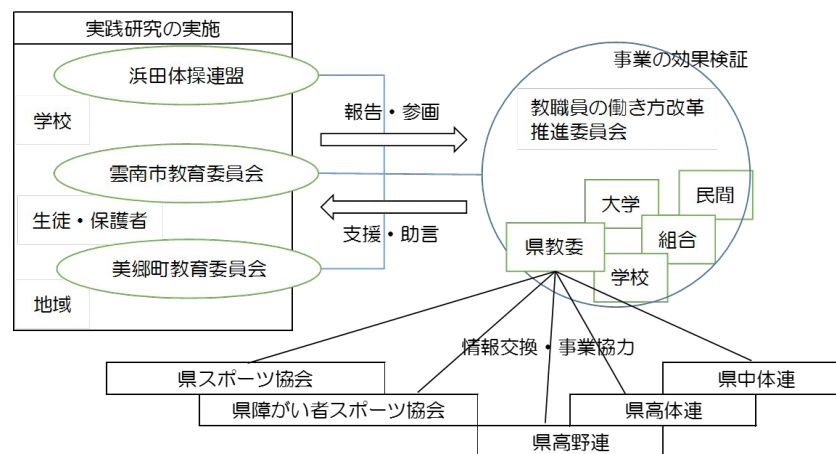
（実践研究の成果）

・各市町村における検討委員会の開催や地域クラブ活動の試行的実施により、地域移行を考えた場合の課題は地域によって異なることを再確認するとともに各地域にとつての「部活動」の在り方について多角的な視点で検討を深めるきっかけとなった。

・県の方針としては、地域によって状況が異なるため、足並みをそろえて部活動の地域移行を行うことは困難とし、教員の働き方改革の一つの手段として地域移行を捉え、部活動指導員等の活用による教員の負担軽減を図るとともに、市町村として地域移行を進めていくことに対して必要な情報を提供していくなど、市町村に寄り添った形で進めていくことを目標とした。

（運営体制図）

地域運動部活動推進事業推進体制（イメージ図）



令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

浜田市体操連盟

（地域における現状・課題）

浜田市立第一中学校では、浜田市中学校部活動ガイドライン（2019年3月・浜田市教育委員会策定）に基づき学校の部活動に係る活動方針を定め、（1）体罰等の根絶、（2）安全管理と事故防止、（3）保護者の理解と協力、を柱として部活動（準部扱い含む）の運営を行っている。専門的指導のできる教員顧問が不足する中で生徒の活動機会の確保と、月あたり平均時間外勤務時間79.1時間に及ぶ教職員の負担軽減の両立が課題となっている。また、部活動の地域移行を図る上で、地域活動の参加者に科学的・効率的な指導ができる地域人材を確保・育成し、持続可能な活動を行う仕組みを構築する必要がある。併せて、地域と学校が連携した取組の他部活への普及を進めるために、生徒・保護者へ休日部活動の地域移行について丁寧に周知し、理解を得ていくことが求められている。

（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

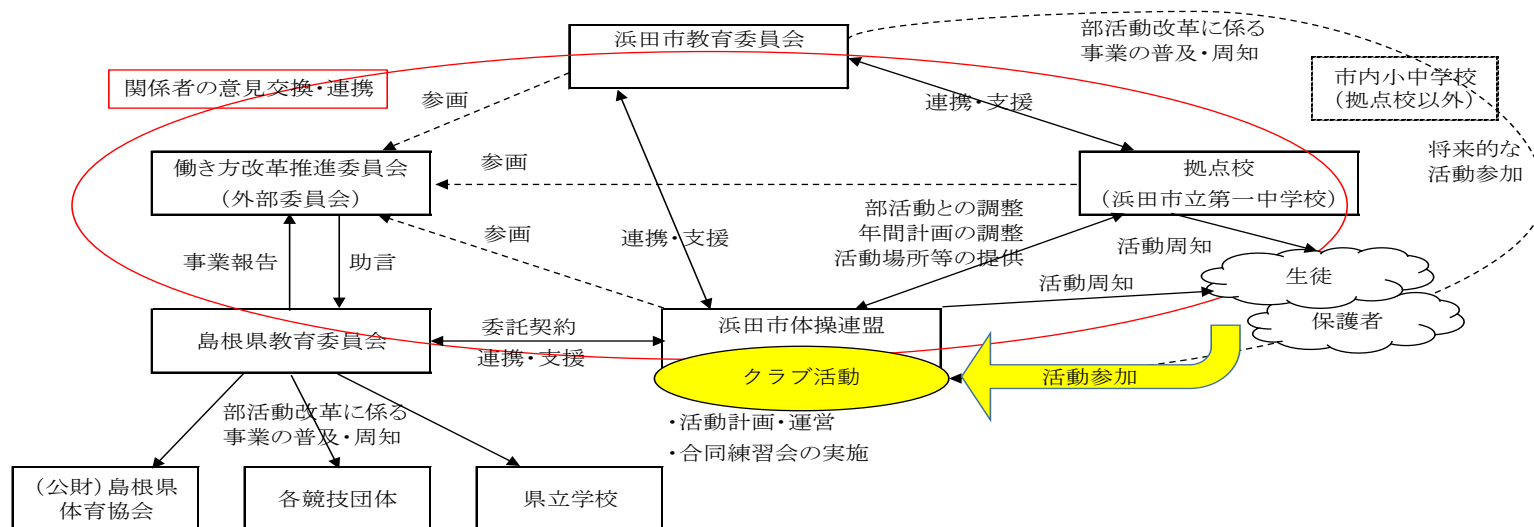
運営主体：浜田体操クラブ／ 浜田体操連盟
活動場所：島根県立浜田高等学校 体操場
指導者：地域指導者
移動手段：徒歩、保護者送迎

責任主体：浜田体操クラブ／ 浜田体操連盟
活動種目：体操競技
会費等：5,000円／月額
保険：800円（スポーツ安全保険）

（実践研究の成果）

・学校と浜田体操連盟との意見交換や情報共有は十分に行うことができたため、生徒の思いに寄り添った指導体制を構築することができた。ただ、市教委との情報の共有は十分にすることはできなかった。
・部活動の時間だけで活動したい生徒と選手としてしっかり活動したい生徒がいるため、完全に地域へ移行することは難しいと感じた。また、浜田市体操連盟で今回のような形で指導に当たっていただく方が一人しか確保できないため、今後の地域移行を考えたときには、指導者への負担が大きくなるという懸念がある。今回、浜田市立第一中学校のみの実践研究となったが、他校も同じように実施するとすると、安全面も考えたときに十分な指導をすることは現状では難しい。体操競技の特性上、器具や技術の発展にともない、過去の指導経験から、安易に指導に携わることが難しく、競技として指導できる人材に限られるのが現状である。

（運営体制図）



令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

雲南市

（地域における現状・課題）

- ・学校規模の格差による生徒が選択できる部活動に大きな差が生じていること
- ・中山間地ならではの広域な通学区域と公共交通機関の便が悪いため休日の部活動のための移動には借り上げたバスや保護者輸送に頼らざるを得ない
- ・1校でチームを編成できずに合同チームの編成を余儀なくされる部活動が多数でくる
- ・部活動の指導について専門的な知識・技能を有する教職員の確保がむずかしい

（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

運営主体：(株) キラキラ雲南

活動場所：文化体育館アスパル他 指導者：地域指導者（指導者バンク登録者）

移動手段：保護者輸送、スクールバス併用

責任主体：雲南市教育委員会

活動種目：ソフトボール（合同部活動）、競泳、テニス、レスリング（体験）

会費等：徴収せず（検討中）

保険：（レクリエーション保険で対応）

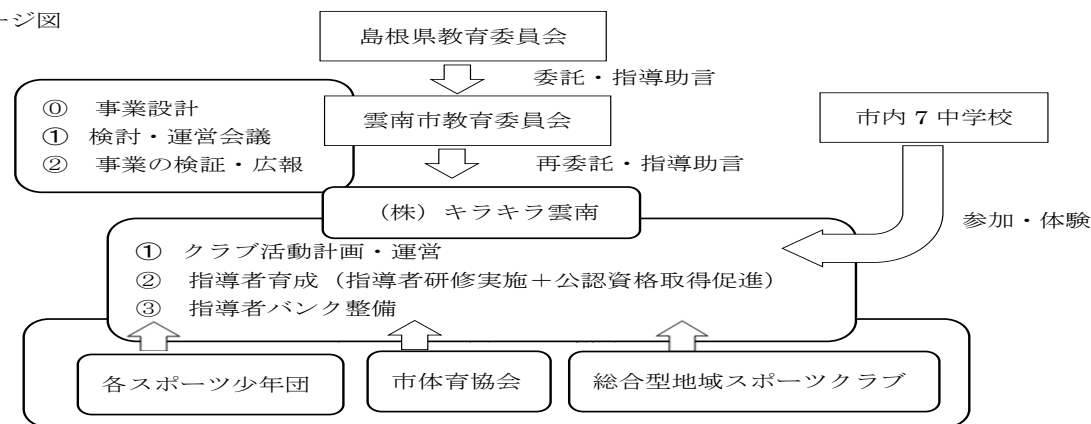
（実践研究の成果）

- ◇学校部活動（平日）と地域クラブ活動（休日）の在り方についての雲南市モデルの見通しが持てた
- ①学校部活動（平日）と地域部活動（休日）の連携モデル → 休日の活動について地域が受皿（全部活・全展開）
- ②学校部活動（平日）を地域指導者が補完するモデル → 指導者バンクの有効活用
- ③地域部活動（平日・休日）として実施および他（多）種目選択の機会を提供するモデル → 地域クラブの育成
- ◇参加者および指導者アンケートを実施し、地域クラブ活動の魅力づくりの方向性が確認できた
- ◇指導者バンクの整備による指導者確保が順調に進んだ（市体育協会および市スポーツ少年団の指導者の理解と協力）



（運営体制図）

イメージ図



写真は検討・運営協議会



写真はソフトボール合同部活動

令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

島根県美郷町

（地域における現状・課題）

美郷町内には邑智中学校、大和中学校の2校があり、生徒の多くが小学生のときにスポーツ少年団で活動をしているが、生徒が希望するスポーツが既存の部活動とマッチしないことが多い。そのため、専門的な指導を求めて町外の中学校へ進学する子どもたちが増加し、生徒数の減少とともに、今後既存の部活動を維持していくことすら困難になると予想される。持続可能で、子どもたちや保護者のニーズに合ったスポーツ活動のあり方について、美郷町全体で検討する必要がある。

（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

運営主体：美郷町教育委員会

取組概要

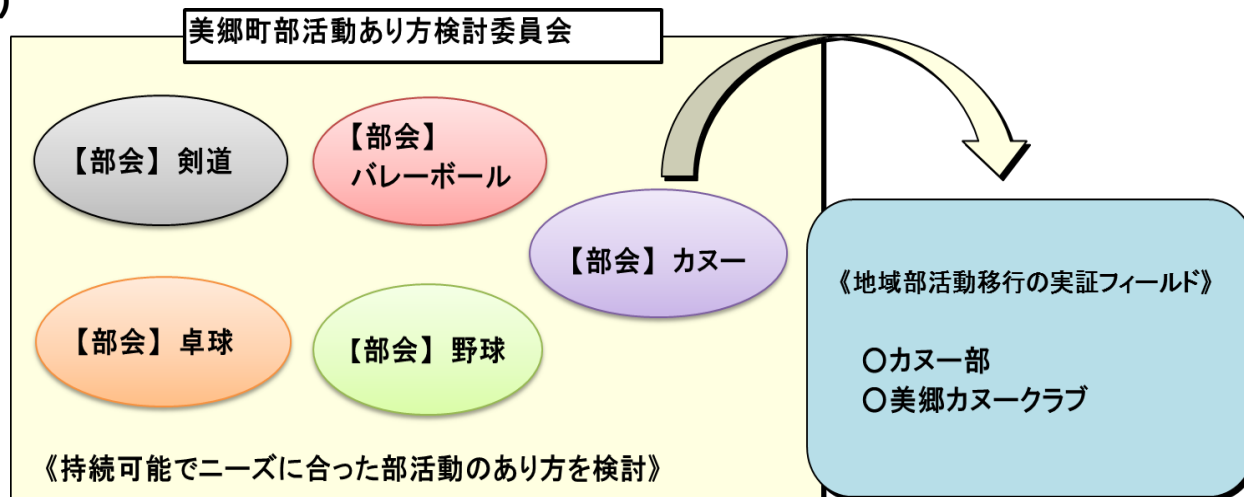
- ・「部活動検討委員会」の開催
- ・部活動（地域移行を含めて）に関するアンケート
- ・中学校部活動において地域移行の実証研究

（実践研究の成果）

本事業に取り組んで見えていたこと

- ・中山間地の美郷町にとって、部活動は子どもたちのスポーツ活動を支える重要な存在である。
- ・休日部活動を地域移行するための指導者や地域の受け皿となる団体が不足している。
- ・教員の働き方改革（時間外勤務の削減）が大きな目的として掲げられており、教員個々のアンケート調査では、部活動に対して負担感を抱いていることがわかる。しかし、その一方で、部活動を生徒指導の場と捉える考え方も根強くあり、また、子どもたちや保護者からの期待に応えたいという思いから、学校側が部活動を手放せない実態がある。

（運営体制図）



【関係団体一覧】

- ・美郷カヌークラブ：部活動指導、指導者のサポート、部活動のあり方検討
- ・美郷町体育協会：部活動のあり方検討、地域移行の検討
- ・スポーツ少年団（剣道、野球、バレー、卓球）：部活動のあり方検討、地域移行の検討
- ・小中学校 P T A：部活動のあり方検討